

宇津ノ谷峠 峠を越える旅人を体験する

古代、道は情報までも運んでいた

7世紀、法律で国を治めていく律令時代に入りました。その頃の道は、人や物資を運ぶだけではなく、中央と地方の情報を伝達する重要なツールであり、それを可能にしたのは「駅伝制」です。当時の道は、直線で早く移動可能な駅路(高速道路)とそれぞれの集落を結ぶ伝路(国道)がありました。平安末期の12世紀末には行政改革が進み、お金のかかる駅路(高速道路)が廃止され、伝路(国道)が主要な道となったのです。

どの時代も主要幹線!

道の博物館宇津ノ谷峠

伊勢物語にでてくる中世の国道「鶯の細道」江戸の国道「東海道」さらに明治、大正、昭和、平成のトンネルとそのルートがあります。時代は変わってもその時代の主要な道ルートが残っているのが宇津ノ谷峠です。

伊勢物語とは

9-10世紀の平安時代に作られた歌物語。天才歌人・在原業平をモデルに恋愛、交友、左遷、遊興など奔放な人生が和歌を中心に語られ、源氏物語にも影響を与え、江戸時代にはベストセラーにもなりました。

1830年駿府の代官で歌人の羽倉簡道が文学的に価値の高い鶯の細道が廃道になったことを嘆いて建立



お地蔵様は地獄に落ちて苦しむ人を救ってくれます。「境」としての峠信仰があり、地獄の入口で人を救う地蔵信仰とつながったようで、峠の両側に地蔵が祭られています。

1 鶯の細道

7世紀の律令時代にできた道といわれています。この頃は伝路でしたが、12世紀末、行革が進み、駅路が廃止されると主要国道となり、多くの旅人が往来しています。伊勢物語では漂白の思いで東国へ向かう主人公がこの峠で偶然知人の修行僧と出会い、京の知人への手紙を託したことが書かれています。平家物語(1184年)、十六夜日記(1279年)などにもこの道の記述があり、文人たちの憧れの道でもありました。

2 東海道

1590年小田原征伐の時、豊臣秀吉が標高210m、勾配24度の鶯の細道よりも大軍を通しやすい道として作り直しました。標高170m、勾配は15度になり、のちに家康公が東海道として整備しています。東海道は概ね6mの幅員があったようですが、ここでは、髭題目近く(藤枝市)で4mの幅員が確認されています。道に番号が付けられたのは1885年(明治18年)。東海道が基本となる現在の国道1号ルートは当時国道2号でした。1920年、東京から神宮までの国道1号と2号が一緒に、現在の国道1号のルートができました。

3 明治トンネル(国史跡)

1874年、江戸時代には徒歩渡しの川であった安倍川に有料木橋がかけられます。物資輸送経路ができて物流が多くなると東海道の峠越えより、トンネルニーズが高まってきました。安倍川の橋をかけた静岡市の宮崎総吾は旧岡部町の杉山喜平治らに声をかけて、トンネル整備に着手し、1876年(明治9年)に日本初の有料トンネルが完成しました。このトンネルは失業していた安倍川の川越人足ら延べ15万人が従事しました。当時はコストを抑えるために「く」の字に曲がっていましたが、火災後の1903年、県の再整備でまっすぐになっています。100年後の2007年には遊歩道「明治の道」も整備しています。

4 大正トンネル

物資輸送がますます盛んになると、5.4m幅員の明治トンネルでは、大型車両のすれ違いができません。そこで1926年(大正15年)に新しいトンネル整備に着手し、長さ227m、幅員7.3mのトンネルが昭和5年に完成しました。しかし、昭和初期の車ではこの坂は厳しいらしく、バスなどは乗客の一部が降りて村人と共に押したという話が残っています。

5 昭和トンネル

戦後の高度成長期(1954年~)に入り、交通量はますます増えてきたなか、1957年に昭和トンネルが着工されます。山の中腹にある大正トンネルとは違い、山の裾を掘りこんだため、トンネルの長さは約4倍の844m、幅員は9mの2車線です。1959年(昭和34年)に開通しました。現在、1997年の補強で長さは862mとなっています。

6 平成トンネル

上下1車線の国道1号は慢性的な渋滞が続いていましたが、1969年に東名高速道路が開通し、一時的に緩和されました。しかし、すぐに渋滞道路となったため、1990年、新しいトンネルとして着工され、1995年(平成7年)に長さ881m、幅員11.5mが完成しました。平成トンネルは下り線、昭和トンネルは上り線に活用されています。



峠にあった地藏堂の延命地藏尊(弘法大師作伝)が祀られています。本尊は十一面観音菩薩。室町時代から伝わる「十団子」は毎年8月23~24日の縁日には魔除けのお守りとして販売されます



十団子の伝説

寺の小僧が人を食べる鬼になり、宇津ノ谷の地蔵が鬼を10の玉にして退治します。丸いものには霊魂がこもるという信仰があり、また「十」には、地蔵を表した経典が「十輪經」、閻魔王を祭るお堂を「十王堂」など、地蔵菩薩とは縁の深い数字です

- 旧東海道
- 太平洋岸自転車道
- 情報拠点
- 見どころ・歴史どころ
- 案内板・説明板・マップ
- バス停
- トイレ
- お食事
- 桜
- コース
- 駐車場
- コンビニ
- 眺望ポイント



古代信仰の石。神が天から降臨する磐座で、神社原形のひとつ



「駿河なる宇津の山辺にうつつにも 夢にも人に逢わぬなりけり」「現実でも夢でも恋しい人、あなたは私を忘れてしまったのでしょうか」京に残した女性を思い詠んだ歌



豊田秀吉が小田原攻めの際、馬のわらじを取り替えるために寄った茶屋。縁起の悪い「4」を避け、3本足だけ渡し、勝利を祈願しました。勝利を挙げた秀吉から与えられた陣羽織があります



1910年の豪雨による山腹崩壊を契機に、県が建設した石積砂防堰堤群です。堰堤8基と流路工2基は登録有形文化財です。



文字は髭題目と呼ばれる書体です。建立は1835年、発起人に備前の国(岡山県)木綿屋門平とあります

